

Title	平成15年度事業報告
Author(s)	
Citation	癌と人. 32 P.34-P.39
Issue Date	2005-05-10
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/23679
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

平成 15 年度 事業 報告

(財) 大阪癌研究会

1. 一般学術研究助成について

癌に関する学術研究を奨励助成するため、昭和 61 年度から実施している「一般学術研究助成事業」は、本年度で 18 年の歴史を重ねております。

今年度は、「悪性腫瘍の診断と治療に関する基礎的並びに臨床的研究」をテーマにしたものを対象に、全国 100 研究機関から公募したところ 63 名の応募があった。

平成 15 年 11 月 25 日に選考委員全員出席のもとに一般学術研究助成選考委員会を開催し、慎重に審議の結果、助成候補者 12 名を選出し委員長名（濱岡利之大阪大学名誉教授）で理事長に答申した。この答申をもとに平成 15 年 12 月 10 日理事会で審議のうえ、答申のあった 12 名を助成金交付対象者とし、1 人当たり 500 千円の交付を決定した。

なお、助成対象者は「別表 1」のとおりである。

2. 癌シンポジウム・講演会等の開催経費の助成について

癌の予防・診断及び治療に関する研究の連絡・提携の促進を図り、癌の医療の進歩普及に貢献するため、本財団の主たる事業の一つとして平成 9 年度から実施している「癌シンポジウム・講演会等の開催経費の一部助成事業」については、癌シンポジウム・講演会等の代表者から助成申請のあったものを、癌シンポジウム・講演会等の奨励助成に関する選考委員会で審議し、審議結果について委員長名で理事長に答申され、理事会で慎重審議のうえ 19 件に助成した。

助成した 19 件の内訳は「別表 2」のとおりであるが、その内の数件について研究成果報告をもとに、その概要を紹介すると次のとおりである。

(1) 大阪地区の悪性リンパ腫についての多施設共同臨床研究会（代表：青笹克之）

1999 年秋に大阪府下の 26 施設のリンパ腫を専門とする医師の参加により設立された大阪リンパ腫研究会は 5 年目の 2004 年には 50 施設をこえる、文字どおり大阪地区のリンパ腫医療に携わる医療機関を網羅した組織へと成長している。各施設を受診したリンパ腫患者の組織標本は大阪大学医学部を中心とする病理診断グループにより中央診断されることにより、統一した基準に基づく治療という流れを提供している。本年は 450 例を越える症例が登録されており、日本最大の規模に達している。この活動を通じて大阪地区の悪性リンパ腫の特性を明らかにするという疫学研究が進展しつつある。

一方、臨床研究に関しては、各参加施設より選ばれた実務者よりなる実務者委員会での検討を通じて 5 つの臨床プロジェクトが提案され、1 つは現在進行中である。2004 年 10 月 30 日には第 5 回大阪リンパ腫研究会総会が 100 名以上の参加のもとで開催された。米国 National Cancer Institute の Jaffe 博士による濾胞性リンパ腫の講演が行われ、参加者に多大の感銘を与えた。

本事業の目的は「統一した病理診断のもと、臨床研究の推進」にあり、今後ともこの方針のもとに事業を継続していく。

(2) 個別化癌化学療法研究グループ (代表：富田尚裕)

我々は主として消化器癌に関する個別化治療、特に個別化がん化学療法を多くの施設で共同研究・試験することを目的として、「個別化癌化学療法研究グループ」を設立した。本研究会は同時に研究者相互間の協力の促進を図り、わが国のがんの個別化治療の発展と医療の向上に寄与することを目的とするものである。

また、本会は (1) 個別化がん化学療法研究の立案、企画、(2) 個別化がん化学療法に関する共同研究、(3) 個別化がん化学療法に関するデータの収集、解析等の事業を行うこととした。

平成 15 年度の主な事業としては、(1) 研究会「個別化癌化学療法研究グループ」の開催、(2) 多施設共同 I/II 相臨床試験の実施であった。

特に臨床試験については「遺伝子解析による大腸がん治療薬の感受性及び副作用予測に関する臨床研究-CPT-11-」の第 I/II 相試験を平成 14 年 9 月より症例登録を開始し、本年度内に Step1 が終了した。現在 Step2 の症例登録中であり、今年度以降も継続して実施する予定である。

(3) 中四国乳癌 HT 療法研究会 (代表：園尾博司)

当研究会の目的は、HER2 過剰発現の転移性乳癌患者に対して Paclitaxel/Trastuzumab の至適投与スケジュールを決定するために、いかなる研究方法を用いたらよいか、また、研究計画が完成された暁には、中四国の参加施設を正式に募り、実施する方向性を作ることである。

岡山大学、広島大学、山口大学、島根大学、済生会岡山病院、倉敷成人病センターより、幹事役を募り、2002 年 11 月 2 日に第一回幹事会が開催された。その際に至適投与方法を立案すべく、各幹事より意見を出し合い、たたき台を作成し、これをもとにプロトコルを作成した。

2003 年 4 月 26 日第 2 回幹事会で大筋了解のうえ、臨床研究に参加可能な中四国の施設に呼びかけ、総会を開催しプロトコルの内容を開示し参加の不可を決定した。この総会で癌研の伊藤良則先生に講演いただいた。

2003 年 10 月 4 日第 3 回幹事会を開催し、前回の幹事会での問題点をさらに煮詰める作業にはいった。

2004 年 4 月 24 日第 4 回幹事会で最終のプロトコル確認の上、実施了解を全会一致で得た。またそれに続いて第 2 回総会を開き、完成プロトコルを参加施設の代表者に説明した。この総会で九州がんセンターの大野真司先生に講演いただいた。

この時点で、研究計画が実を結んだために、研究会母体が主導となって臨床自主研究にはいることになっている。

(4) 癌治療における椎茸菌糸体抽出物の有用性検討会 (代表：螺良英郎)

当研究会に参加し研究されている施設は当初からの 9 施設と新たに参加の 2 施設である。

L.E.M (椎茸菌糸体抽出物) の転移性抑制効果に関する免疫学的検討、L.E.M の in vitro 免疫能因子に及ぼす影響に関する検討、L.E.M の癌患者治療に際しての免疫学的影響ならびに Quality of Life に及ぼす影響などに関してデータを蓄積しつつある。

今年度は 5 月に大阪に集まり検討会を開催。今後も引き続き本剤の役割について検討を進めていく予定である。

(5) なには乳癌研究会（代表：芝 英一）

本研究会は、転移性乳癌、もしくは切除不能な局所進行再発乳癌、及び再発乳癌（＝進行・再発乳癌）を有する閉経後・ホルモン受容体陽性または不明の乳癌患者に対し、非可逆的アロマターゼ阻害剤エキセメスタン（ステロイド系、Ⅰ型）と可逆的アロマターゼ阻害剤アナストロゾール（非ステロイド系、Ⅱ型）との有用性を比較検討するために組織され、参加施設 31 施設で開始された。閉経後のホルモン受容体陽性または不明の乳癌治療において、タモキシフェン（TAM）による補助療法施行中の再発、TAM による治療に無効となった乳癌転移性乳癌、切除不能な局所進行再発乳癌、及び再発乳癌（＝進行・再発乳癌）を有する閉経後・ホルモン受容体陽性または不明の乳癌患者に対し、非可逆的アロマターゼ阻害剤エキセメスタン（ステロイド系、Ⅰ型）と可逆的アロマターゼ阻害剤アナストロゾール（非ステロイド系、Ⅱ型）との有用性を比較検討する。また、併せて効果的な投与順序も検討する。

現在の登録状況は 35 例で、引き続き症例集積を行い本研究を継続して行く予定である。

(6) 東京消化器癌化学療法研究会（代表：北島政樹）

ア. 第 1 回総会

平成 15 年 6 月 24 日東京八重洲富士屋ホテルで第 1 回総会を開いた。消化器癌の治療、特に進行再発例に対する化学療法の研究を目的に 11 施設から約 40 名の医師が集まり、胃癌に対する臨床研究テーマを討議した。その結果、CPT-11+TS-1 併用療法が採択され、第Ⅰ/Ⅱ相試験としてスタートすることとなった。

また、講演会では大阪消化管がん化学療法研究会代表の古河 洋先生を招いて研究会の立ち上げ、運営に関する話と、進行中のプロトコルの説明、今後の研究会の方向について講演いただき、活発な意見交換がなされ有意義な総会となった。

イ. 大腸癌小委員会

平成 15 年 12 月 9 日東京山の上ホテルで東京消化器癌化学療法研究会：幹事 4 名の医師が集まり、大腸癌に対する臨床研究テーマを討議した。その結果 12 月末に TS-1 が大腸癌の効能追加を控えていたこと、予想される有効性、認容性から研究テーマとして有望であることから、大腸癌に対しても CPT-11+TS-1 併用療法が採択され、第Ⅰ/Ⅱ相試験のプロトコルの立案をすることとなった。

ウ. 第 1 回学術講演会（研究会も含む）

平成 16 年 2 月 18 日東京八重洲富士屋ホテルで研究会をおこなった。研究会では胃癌に対する CPT-11+TS-1 併用療法第Ⅰ/Ⅱ相試験の進行状況の報告と大腸癌に対する CPT-11+TS-1 併用療法第Ⅰ/Ⅱ相試験のプロトコルが提示され、採択された。（本試験は平成 16 年 4 月 1 日からスタートすることとなった。）

引き続き、（株）ヤクルト本社と共催で三沢市立病院院長坂田 優先生を招いて学術講演会を開催し、消化器癌の化学療法の最新情報について講演いただき、活発な質疑応答が行われた。

なお、東京消化器癌化学療法研究会では総会、研究会のほかに学術講演会も積極的に開催し、各研究分野の先生を招いて癌治療に関する情報を幅広く集め、医療現場への普及に鋭意努力していく予定である。

3. 癌の知識普及活動について

本財団の会誌「癌と人」の第30号を刊行し、全国の癌研究機関の研究者をはじめ、一般市民向けに主に関西を中心とした地方公共団体の健康管理センターや福利施設、及び、賛助会員等に無償で配布し、癌に対する正しい知識の普及活動に鋭意努力した。

平成 15 年度「一般学術研究助成金」助成対象者

氏 名	所 属 機 関	研 究 テ ー マ
常 岡 誠 (45 歳)	久留米大学医学部 法医学・人類遺伝学講座	新規 Myc 調節遺伝子 mina53 の機能解明及び mina53 を利用した癌診断法の開発
黒 川 峰 夫 (37 歳)	東京大学医学部 附属病院血液・腫瘍内科	転写因子による造血システムの制御と悪性化機 構の解明および治療法の開発
大 石 勲 (33 歳)	神戸大学大学院 医学系研究科ゲノム科学講座	DNA 損傷応答における癌遺伝子産物・癌抑制遺伝 子産物の脱リン酸化による制御機構の解析
岸 本 宏 之 (30 歳)	秋田大学医学部 構造機能医学講座	P13K/PTEN 経路が制御する肝臓の脂肪化と造腫 瘍性
大 谷 直 子 (40 歳)	徳島大学 ゲノム機能研究センター 蛋白情報分野	EB ウイルス LMP1 による CDK インヒビター p27kip1 の核内分解促進機構の解明
福 井 広 一 (37 歳)	京都大学大学院 医学研究科消化器病態学講座	潰瘍性大腸炎の病態形成における Reg 蛋白の役割
伊 藤 彰 彦 (41 歳)	大阪大学大学院 医学系研究科病理学	肺癌抑制因子 TSLC1/SgIGSF の非腫瘍性細胞の生 存における役割の解析
三 浦 典 正 (43 歳)	鳥取大学医学部 病態解析医学講座	テロメラーゼ逆転写酵素発現を調節するヒトリ ボソーム蛋白群及び 10 番染色体短腕上にコード される 2 つの RNA 遺伝子の発癌における役割と 機能解析
須 田 貴 司 (44 歳)	金沢大学がん研究所	Fas リガンドの IL-17 産生誘導機構とその炎症お よび癌拒絶における役割の検討
満 田 憲 昭 (42 歳)	愛媛大学医学部 生理学第二	アポリポ蛋白 E 受容体リガンドによる乳癌の予 防・治療に関する研究
加 藤 順 也 (44 歳)	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 動物分子遺伝学講座	Jab1 によるがん悪性化の機構解明と、抗がん剤効 用の判定法
山 中 伸 弥 (41 歳)	奈良先端科学技術大学院大学 遺伝子教育研究センター	胚性幹細胞特異的遺伝子 Nanog と ERas の腫瘍細 胞における役割

別表 2

平成 15 年度「癌シンポジウム・講演会等助成費」助成対象会議等

単位：千円

シンポジウム・講演会等の名称	申請者	助成金額	備考
第 20 回日本毒性病理学会・第 5 回国際毒性病理学会合同 国際学術会議	福島昭治	12,872.5	
CCOG 進行/再発胃癌化学療法研究会	小寺泰弘	4,750	
第 6 回アジア臨床腫瘍学会の国際会議	Jin-Pok Kim	7,705	
大阪消化管がん化学療法研究会	古河洋	22,150	
第 10 回大阪がん検診治療研究会	藤田昌英	100	
大阪地区の悪性リンパ腫についての多施設共同臨床研究	青笹克之	7,125	
神奈川・東海地区胸部腫瘍臨床研究会	渡辺古志郎	28,500	
埼玉乳がん臨床研究グループ（略称：SBCCSG）	田部井敏夫	1,900	
中国・四国地区婦人科癌（卵巣癌）集学的治療に関する研 究会	河野一郎	1,900	
南大阪乳腺臨床研究会	龍田眞行	2,042.5	
中四国乳癌 HT 療法研究会	園尾博司	950	
個別化癌化学療法研究グループ	富田尚裕	2,850	
OPRT 研究会	落合匠	4,750	
大阪府立成人病センター大腸癌研究グループ	村田幸平	475	
癌治療における椎茸菌糸体抽出物の有用性検討会	螺良英郎	14,250	
前立腺癌に対する LH-RH アゴニスト製剤の薬力学的効果 の検討	平尾佳彦	1,900	
KobeBrestCancerOncologyGroup	河野範男	4,750	
なには乳癌研究会	芝英一	2,375	
東京消化器癌化学療法研究会	北島政樹	2,000	
合計（19 件）		123,345	